

# 若手教員と目指す児童の「考えを書く力」の育成

学籍番号 (209107)

氏名 (馬野 雅章)

主指導教員 (寺嶋 浩介)

## 1. 背景

### 1.1 実習校の現状

昨今の全国的な若手教員の増加と同様に、若手教員が増えてきている。40名の教員のうち、50代の教員がおらず、20代の教員が11名となっている。若手教員の中には、日々の業務に追われ、授業にまでなかなか手が回りきらず、授業に対する悩みを持っている教員もいる。

そうした中、平成31年度に実施された全国学力・学習状況調査の結果、各教科の平均正答率は、算数については、若干全国の平均を下回ったものの、ほぼ全国の水準にあるが、国語については全国の平均正答率を下回り、無回答率も全国平均より高くなっており、課題が見られる。

### 1.2 実習の目的

実習の目的を主に2つ設定した。「1. 児童の課題としての書く力の育成」「2. 教員の指導力の向上」である。

児童の課題としての書く力の育成に向けては、児童の書く意欲を高めながら、児童が自分の考えを書くことができるようにするにはどうすればいいのか、先行研究をもとに、自ら実践した。そのことを、他教員からの評価や児童の実態をもとに取り組みをしていった。

教員の指導力の向上に関しては、筆者自身の授業公開のみならず、6年目までの若手教員が困っていることを解決するための勉強会を実施した。また、その際、若手教員の指導案の作成から関わり、一緒になって成長していくことができるような働きかけをした。

## 2. 取り組みの概要

### 2.1 1年目の取り組み

1年目の取り組みとして、担任をしていた3年生で実践をしていった。同じ3年生を組んでいた、当時6年目、3年目教員の困っていることをもとに、授業改善案を出し、一緒に取り組みを進めた。困り感として挙げたものとして、「新型コロナウイルス感染症対策のために話し合い活動ができず、児童の思考と理解を促すために、書く活動に頼らないといけないが、今まで意識して取り組んでいないこともあり、どうすればいいか悩ましい」「社会科の授業ではつい教える授業になってしまい、児童の考えを書く活動を取り入れにくい」というものがあった。それらの課題を解決するために、学年での勉強会の実施や、公開授業を行

った。そういった取り組みを通して、児童の「考えを書く力」の育成を目指して授業実践に学年として、取り組んだ。

また、学期ごとに児童を対象にアンケートを実施し、児童の「考えを書く力」の実態把握と取り組みの効果検証を行った。

それらの取り組みから上がった課題をもとに、「考えを書く力」の育成に向けた基本構想の見直しと改善に努めた。

### 2.2 2年目の取り組み

前年度、作成した基本構想をもとに、勉強会の対象とする教員を広げて取り組んだ。同学年を組んでいる6年目までの若手教員だけでなく、新任教員や若手講師も対象に勉強会を実施した。

前年度と同様に自身の授業公開を行うとともに、若手教員の困っていることを解消するための勉強会を継続して行った。勉強会では、事前勉強会、公開授業、事後勉強会という流れを作り、事前に授業について視点を若手教員と共有を行うようにした。

また、新任教員が支援学級担任ということもあり、通常学級で授業ができないことから、筆者の学級での授業実践の場を設定した。教材設定から、指導案の作成を一緒に行いながら、授業実践に取り組んだ。授業後には反省会を行い、今後の改善について話し合いを行った。

## 3. 成果と課題

### 3.1 成果

目的である「1. 児童の課題としての書く力の育成」について、児童のアンケートの結果や、テストやノートによる評価から、力がついてきたと考えることできる。

また、「2. 教員の指導力の向上」については、若手教員からは、「勉強会がためになった。自分が今まで知らなかった視点を手に入れることができた」との声が複数上がった。さらに、それらの声を基にした前年度からさらに改訂した児童の「考えを書く力」の育成のための基本構想もさらに充実した中身とすることができた。

### 3.2 課題

「児童の課題としての書く力の育成」については、今後も継続して進めていくことが必要であると考えている。また、作成した基本構想の有効性についての検証もまだまだであると感じている。そのため、今後、さらに実践を重ねながら、より有効性の高いものとしていく必要がある。

「教員の指導力の向上」についても、まだまだ限られた数名の職員の中で広まっただけである。学校体制という視点で考えたときには不十分であると考えている。そのため、今後は、さらに多くの教員を巻き込みながら取り組みを進めていきたい。

また、基本構想についても、今後、より多くの教員の声を聴きながら改善を進めていくことが必要である。